

貿易赤字の縮小は輸出と輸入のどちらによるものか

要旨

2024年の貿易赤字は5.628兆円で、2023年から3.894兆円縮小した。輸出額は6.214兆円増えたが輸入額も2.321兆円増えた。輸入減少による赤字縮小ではない。

1. 調査対象と資料

対象は日本の2019-2024年の通関ベースの貿易。暦年をそろえた確定値を採用した。財務省・税関の年別表にある西暦、輸出、輸入の3列を使用する。原表の1950年以降の系列を取得し、直近6年のみ抽出した。2019年は感染症拡大前の比較年、2022年はこの期間で最大の赤字年として残す。速報や概況値を同じ列へ追加しない。

原表に欠測のない連続6年を採用した。国内生産やサービス輸出入は集計対象に加えていない。国際収支統計の貿易収支とも集計時点・対象範囲が異なるため接続しない。

2. 計算方法

原表の年別行から2019-2024年を抽出。貿易収支＝輸出額－輸入額。収支改善額＝輸出増加額＋輸入減少額。千円を10億で割り兆円へ変換。

年を t 、輸出額を E 、輸入額を M とすると収支 $B(t)=E(t)-M(t)$ 。比較年 s からの改善は $B(t)-B(s)=[E(t)-E(s)]+[M(s)-M(t)]$ 。改善額との比率は各項を収支改善額で割る。増減率と改善額との比率は別の計算だ。

公表値の整数で差分を計算してから兆円に換算した。表示は小数第3位へ丸める。輸入が増えた場合は輸入側の金額を負値で示す。

3. 計算結果

年	輸出額（兆円）	輸入額（兆円）	収支（兆円）
2019	76.932	78.600	-1.668
2020	68.399	68.011	0.388
2021	83.091	84.875	-1.784
2022	98.174	118.503	-20.330
2023	100.873	110.395	-9.522
2024	107.088	112.716	-5.628

2023-2024年の輸出の増加分は6.214兆円、輸入の減少分は-2.321兆円。合計は3.894兆円で収支差分と一致する。輸出側改善額との比率は159.61%、輸入側は-59.61%となる。改善額との比率の絶対値が100%を超えても異常ではない。

4. 比較期間による差

2022年との比較では収支が14.701兆円改善した。輸出増加は8.914兆円、輸入減少は5.787兆円で、両方が改善につながった。比較の始点によって説明が変わる。

2022-2024年の輸出側改善額との比率は60.63%、輸入側は39.37%。2023年からの比較で輸入が増加したという結果とは異なる。始点を変えても赤字縮小という方向は同じだが、輸入側の符号は変わる。

2019年と比べた2024年の収支差は-3.961兆円。直近の改善だけを使って感染症拡大前より収支が良いとは言えない。

5. 検証と再現

年の重複、連続性、欠測を検査する。別の抽出処理で原HTMLの数値セルを取得し、整数の輸出-輸入と差分恒等式を再計算する。主要な再計算値は検証記録に保存する。再計算用のコードと結果を保存した。集計CSVは記事から取得できる。

標本抽出による平均差の推定を目的とせず、公表された全国総額を比較している。独立標本の検定や因果回帰は行わない。収支だけを目的変数にした将来予測も検証用期間が不足するため採用しない。

6. 限界と業務への利用

名目円建ての総額。数量、単価、為替の効果を分離できず企業利益や景気の良否を判定しない。輸出は本船渡し価格、輸入は運賃・保険料込み価格で計上基準が異なる。

自社の輸出入を調べる場合は通関日、品目コード、数量、数量単位、通貨、円換算額、運賃・保険料をそろえる。同じ品目と単位で数量と単価を分け、仕入価格や売価の変更を確認する。取引先別の利益には原価や販売費も必要になる。

出典

財務省・税関「年別輸出入総額（確定値）」を加工。2026年9月7日取得。保存した表の最終年は2024年。